

(11) 通勤通学動向

本町に居住している15歳以上の通勤通学者のうち、70.5%が町外で通勤通学しており、昼間は大半が町外で過ごしているといえる。

通勤通学先としては名古屋市が最も多く(26.4%)、それ以外は豊田市(10.6%)、みよし市(9.3%)、日進市(8.3%)と続いており、名古屋市以外は概ね1割程度となっている。

通勤・通学の交通手段は、自家用車の利用が59.0%と半数を超え、主要公共交通機関であるバスは7.2%と低く、自家用車への依存度が高いといえる。

表 2-8 15歳以上の通勤・通学者の状況(平成22年)

項目	人数	割合	他市区町村での割合
	(人)	(%)	
東郷町内で通勤・通学 (自宅を含む)	6,214	27.4%	
県内他市区町村で 通勤・通学	15,997	70.5%	100.0%
名古屋市	5,984	26.4%	37.4%
豊田市	2,402	10.6%	15.0%
みよし市	2,116	9.3%	13.2%
日進市	1,890	8.3%	11.8%
豊明市	655	2.9%	4.1%
刈谷市	627	2.8%	3.9%
長久手町	286	1.3%	1.8%
安城市	186	0.8%	1.2%
大府市	174	0.8%	1.1%
岡崎市	146	0.6%	0.9%
瀬戸市	133	0.6%	0.8%
春日井市	116	0.5%	0.7%
県内その他	1,282	5.7%	8.0%
他県で通勤・通学	173	0.8%	—
不詳	301	1.3%	—

※県内は100人以上を掲載

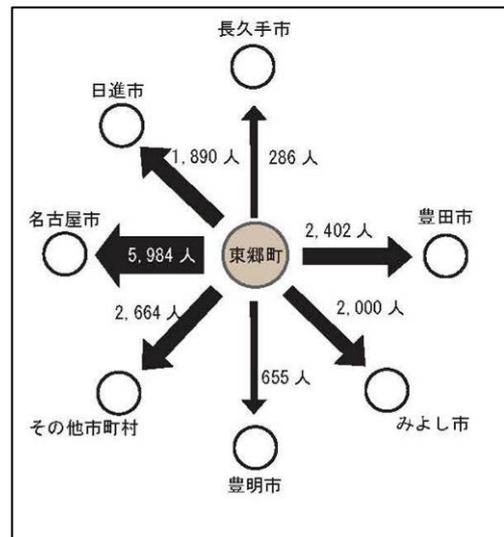


図 2-32 15歳以上の通勤・通学の状況
資料：平成22年国勢調査

表 2-9 流出人口(通勤・通学)の交通手段の割合による人口数

	バス		自動車		二輪車		徒歩		計	
	人数 (人)	割合 (%)								
鉄道への 乗り換えあり	922	5.8%	431	2.7%	111	0.7%	136	0.9%	1,600	10.0%
鉄道への 乗り換えなし	224	1.4%	9,006	56.3%	2,320	14.5%	2,847	17.8%	14,397	90.0%
合計	1,146	7.2%	9,437	59.0%	2,431	15.2%	2,983	18.6%	15,997	100.0%

※ 第4回パーソントリップ調査 人の動きからみる中京都市圏のいま
(H15.3中京都市圏総合都市交通計画協議会)
P9 代表交通手段別利用率の推移より割合を設定

(12) 購買動向

平成22年の町内での購買動向は、町内での購買が18.8%で、平成12年の28.7%に比べて減少している。品目別では、最寄品は町内での購入が半数以上を占め、平成12年よりも増加しているものの、最寄品以外の品目では町内購入の割合が5～15%程度で、平成12年に比べて半減している。

町外での購買動向は、平成12年と平成22年とも70%台で変わらないが、内訳を見ると、名古屋市が50.6%から23.5%と大きく減少し、みよし市が7.4%から31.1%と急増していることから、名古屋市内や町内での購買がみよし市に流出しているといえる。

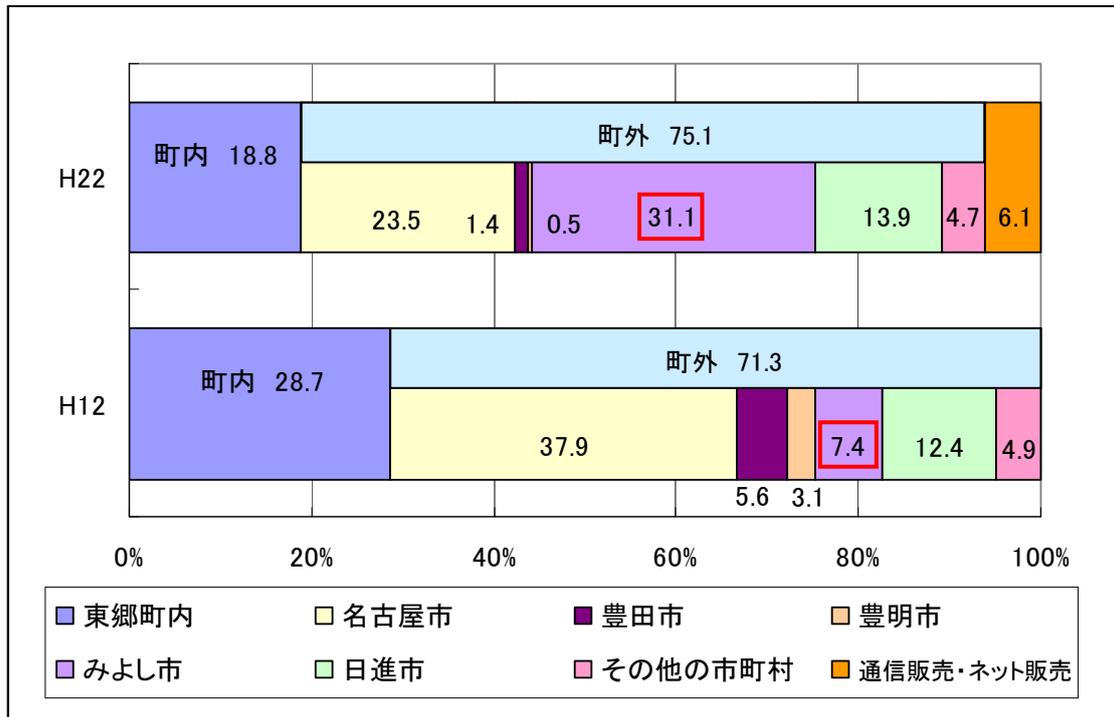


図 2-33 東郷町の消費者購買動向の推移

資料：愛知県消費者購買動向調査

表 2-10 消費者購買動向

単位：%

区 分	買回品		準買回品		最寄品		贈答品		総合	
	H12	H22								
東郷町内	8.3	5.0	15.6	13.3	59.7	61.1	6.9	5.1	28.7	18.8
	▲ 3.3		▲ 2.3		1.4		▲ 1.8		▲ 9.9	
諸輪地区	2.3	1.5	1.2	0.3	2.3	0.0	0.9	0.0	1.8	0.7
	▲ 0.8		▲ 0.9		▲ 2.3		▲ 0.9		▲ 1.1	
白鳥・御岳地区	5.9	0.5	13.6	7.2	32.4	34.8	13.8	5.1	14.3	9.8
	▲ 5.4		▲ 6.4		2.4		▲ 8.7		▲ 4.5	
和合地区	0.7	0.1	2.1	0.3	4.1	0.5	1.8	0.0	1.9	0.3
	▲ 0.6		▲ 1.8		▲ 3.6		▲ 1.8		▲ 1.6	
和合ヶ丘地区	0.0	0.1	0.0	0.0	0.9	0.0	0.9	0.0	0.3	0.1
	0.1		0.0		▲ 0.9		▲ 0.9		▲ 0.2	
傍示本地区	0.9	0.1	0.9	0.9	2.3	5.1	0.9	0.0	1.2	1.3
	▲ 0.8		0.0		2.8		▲ 0.9		0.1	
祐福寺地区	0.5	0.1	1.5	0.7	5.0	3.6	0.0	0.0	1.6	1.0
	▲ 0.4		▲ 0.8		▲ 1.4		0.0		▲ 0.6	
部田・部田山地区	0.9	0.0	4.5	2.2	4.1	11.5	0.0	0.0	2.5	3.0
	▲ 0.9		▲ 2.3		7.4		0.0		0.5	
白土地区	1.4	1.2	1.5	0.7	4.1	3.3	0.0	0.0	1.8	1.3
	▲ 0.2		▲ 0.8		▲ 0.8		0.0		▲ 0.5	
その他	4.7	1.4	3.3	1.0	0.9	2.3	1.8	0.0	3.3	1.3
	▲ 3.3		▲ 2.3		1.4		▲ 1.8		▲ 2.0	
町 外	88.1	91.8	77.3	72.4	39.1	38.1	89.5	89.7	75.3	75.1
	3.7		▲ 4.9		▲ 1.0		0.2		▲ 0.2	
名古屋市	65.9	28.6	39.2	18.1	29.7	12.5	67.6	41.3	50.6	23.5
	▲ 37.3		▲ 21.1		▲ 17.2		▲ 26.3		▲ 27.1	
豊田市	9.5	2.9	3.0	0.0	1.8	0.0	5.5	2.0	5.6	1.4
	▲ 6.6		▲ 3.0		▲ 1.8		▲ 3.5		▲ 4.2	
豊明市	2.5	0.1	2.1	1.0	5.0	0.5	4.5	0.5	3.1	0.5
	▲ 2.4		▲ 1.1		▲ 4.5		▲ 4.0		▲ 2.6	
みよし市	0.0	34.2	20.5	35.3	3.6	12.5	5.5	42.9	7.4	31.1
	34.2		14.8		8.9		37.4		23.7	
日進市	15.8	17.8	10.5	14.8	12.2	11.3	4.6	1.0	12.4	13.9
	2.0		4.3		▲ 0.9		▲ 3.6		1.5	
その他の市町村	4.5	8.2	8.1	3.2	2.3	1.3	1.8	2.0	4.9	4.7
	3.7		▲ 4.9		▲ 1.0		0.2		▲ 0.2	
通信販売・インターネット販売	0.0	2.9	0.0	14.2	0.0	0.8	0.0	5.1	0.0	6.1
	2.9		14.2		0.8		5.1		6.1	

資料：愛知県消費者購買動向調査

※調査品目の区分

買回品：紳士服、婦人服、スポーツレジャー用品、電気製品（購買頻度が少なく、比較的高額で、好みが多様化している商品を購入するにあたって、複数の店舗に足を運び、価格・品質・デザインなどを比較検討して買う物）

準買回品：下着、園芸用品、化粧品

最寄品：台所用品、日常食料品（消費者にとって毎日の生活に欠かせない商品で、購買頻度が高く、消費機会の多い身近なもの）

贈答費：贈答品

(13) 交通体系

1) バスルート

本町は鉄道駅がないため、公共交通手段は名鉄バスと町のコミュニティバス（じゅんかい君）が担うが、日常生活での自家用車への依存度は高い。

町内を通る名鉄バスは現在5ルートあり、豊田市～赤池間を東西に横断する路線が2系統（星ヶ丘豊田線：130本/日と、祐福寺線：85本/日）と、日進駅～愛知教育大前間を南北に縦断する路線（愛教大線：25本/日）のほか、町西端を通る赤池駅～前後駅（7本/日）、町を東西に横断する、赤池駅～イオン三好店アイモール前（6本/日）がある。

町のコミュニティバスは現在3ルート（西コース：12本/日、北コース：18本/日、南北コース：9本/日）あり、市街化区域を中心に路線ルートが設定されている。北コースは日進駅と米野木駅に、南北コースは日進駅に接続している。

注：「星ヶ丘豊田線」は地下鉄「赤池駅」と名鉄「豊田駅」とを結ぶ路線

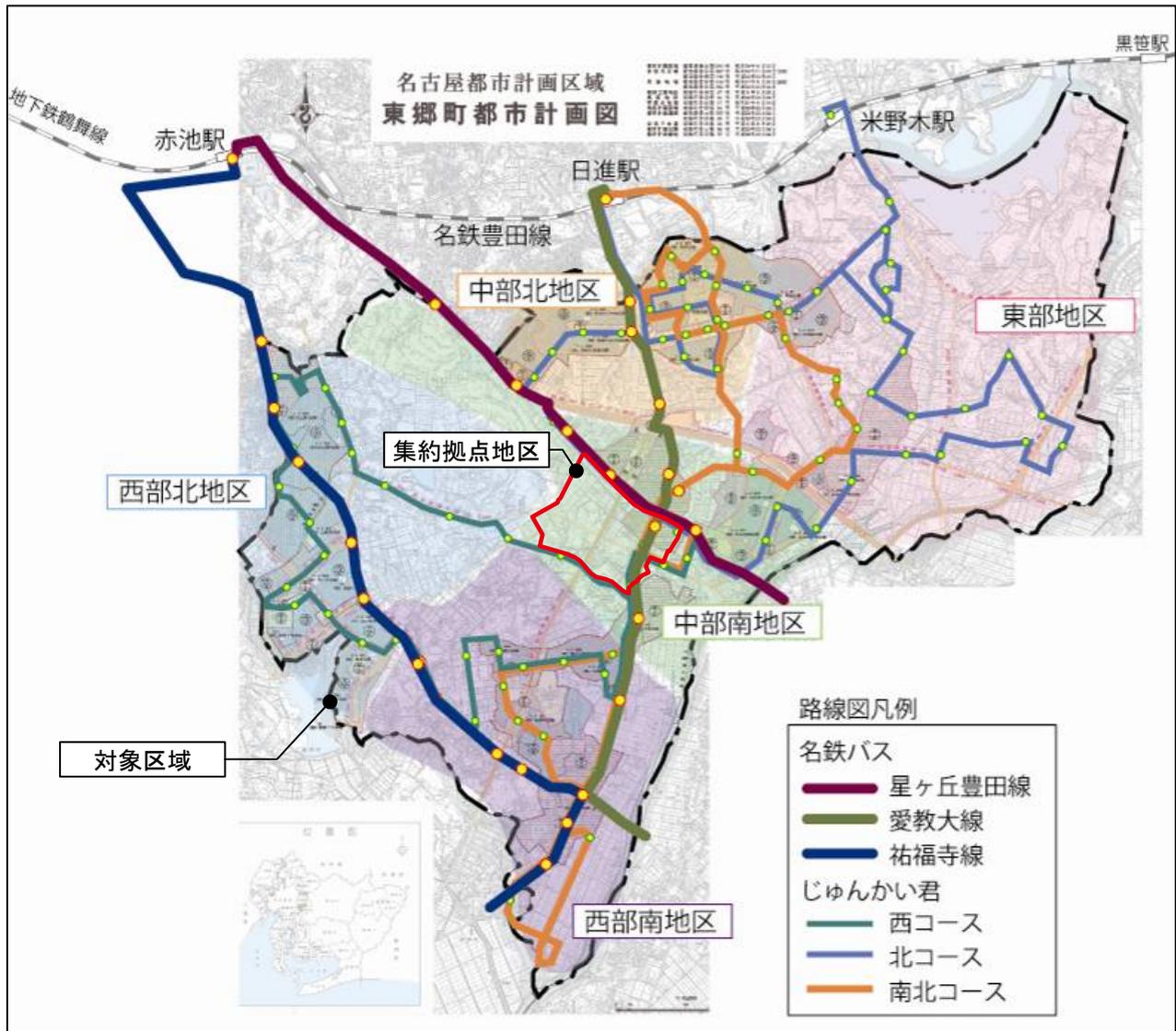


図 2-34 主要バスルート

資料：じゅんかい君ルートマップ・名鉄バスHP

2) バスの利用者数

本町のバス利用者数は、3,517 人/日である。

①バスルートごとの利用者数

バスルートごとの利用者の内訳は、星ヶ丘豊田線の利用割合が 53.6%、次いで祐福寺線が約 26.3%、じゅんかい君が約 14.8%である。愛教大線は 5.3%と少ない。

表 2-11 バス利用者数

バスルート	人数(人/日)	割合(%)
星ヶ丘豊田線	1,884	53.6%
愛教大線	187	5.3%
祐福寺線	924	26.3%
名鉄バス 計	2,995	85.2%
じゅんかい君	522	14.8%
東郷町全体	3,517	100.0%

②バス利用者の乗車区間

バスの乗車区間の内訳は、流出入（町内⇔町外）が 53.1%、町内（町内で乗降）が 14.4%、通過（町内で乗降なし）も 32.5%と比較的多い。

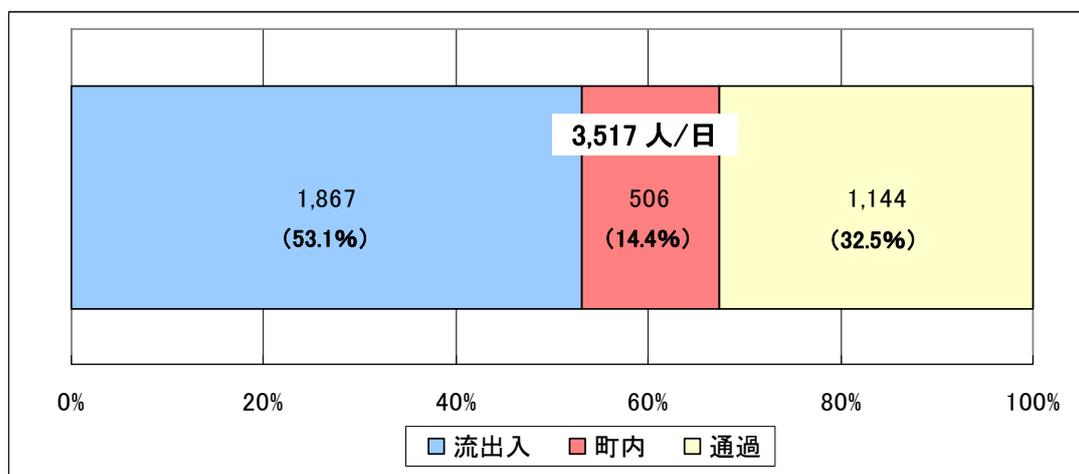


図 2-35 バス利用者の乗車区間

資料：東郷町地域公共交通総合連携計画及び国勢調査のデータを加工

バスルートごとの乗車区間の内訳は、星ヶ丘豊田線及び愛教大線は通過の割合が5割を超えている。

一方、祐福寺線は流出入が9割を越えている。じゅんかい君は町内が8割を超えている。

表 2-12 バス利用者の乗車区間

バスルート	乗車区間	人数(人/日)	割合(%)
星ヶ丘豊田線	流出入	855	45.4%
	町内	13	0.7%
	通過	1,016	53.9%
	小計	1,884	100.0%
愛教大線	流出入	68	36.4%
	町内	9	4.8%
	通過	110	58.8%
	小計	187	100.0%
祐福寺線	流出入	864	93.5%
	町内	42	4.5%
	通過	18	1.9%
	小計	924	100.0%
じゅんかい君	流出入	80	15.3%
	町内	442	84.7%
	通過	0	0.0%
	小計	522	100.0%

資料：東郷町地域公共交通総合連携計画及び国勢調査のデータを加工

名鉄バスの乗降場所は赤池、日進が各ルートとも約9割を占めている他、愛知教育大が約4割と鉄道駅と大学に集中している。

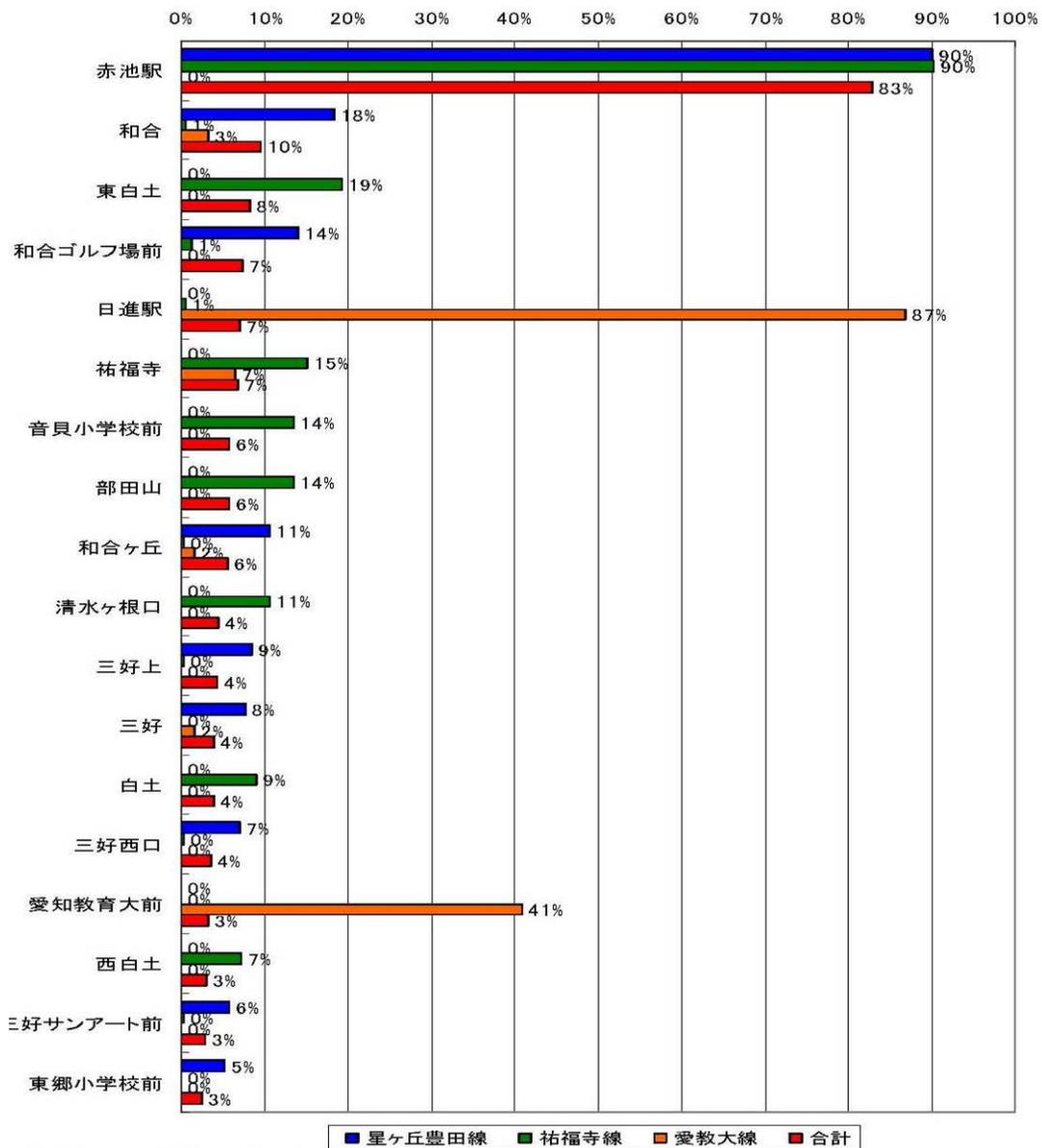


図 2-36 名鉄バスの乗降場所

資料：東郷町地域公共交通総合連携計画

3) バスの利用目的

①利用目的の分類

バスの利用目的の割合は、通勤が39.0%、通学が10.7%、その他（日常利用）が50.4%となっている。

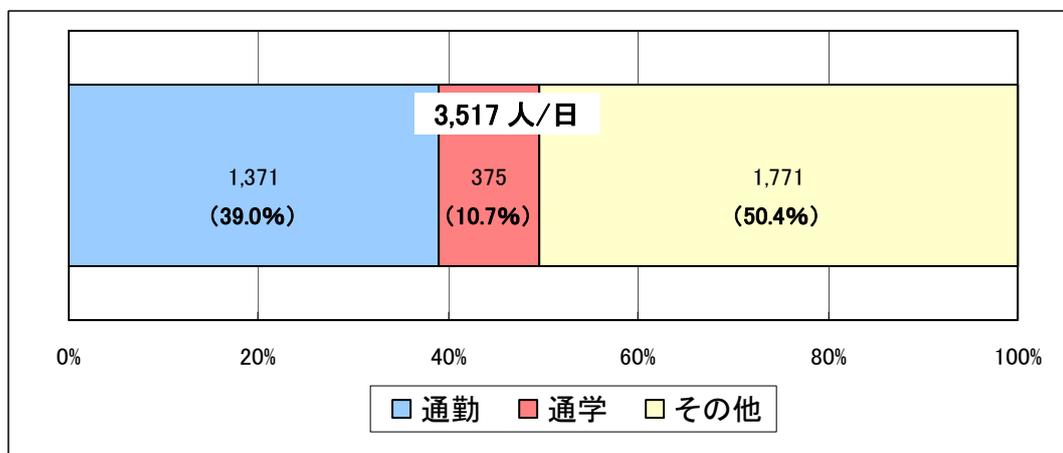


図 2-37 バス利用者の目的

資料：東郷町地域公共交通総合連携計画及び国勢調査のデータを加工

また、利用目的別に乗車区間を見ると、通勤、通学ともに流出入が5割程度、通過が3割程度となっている。

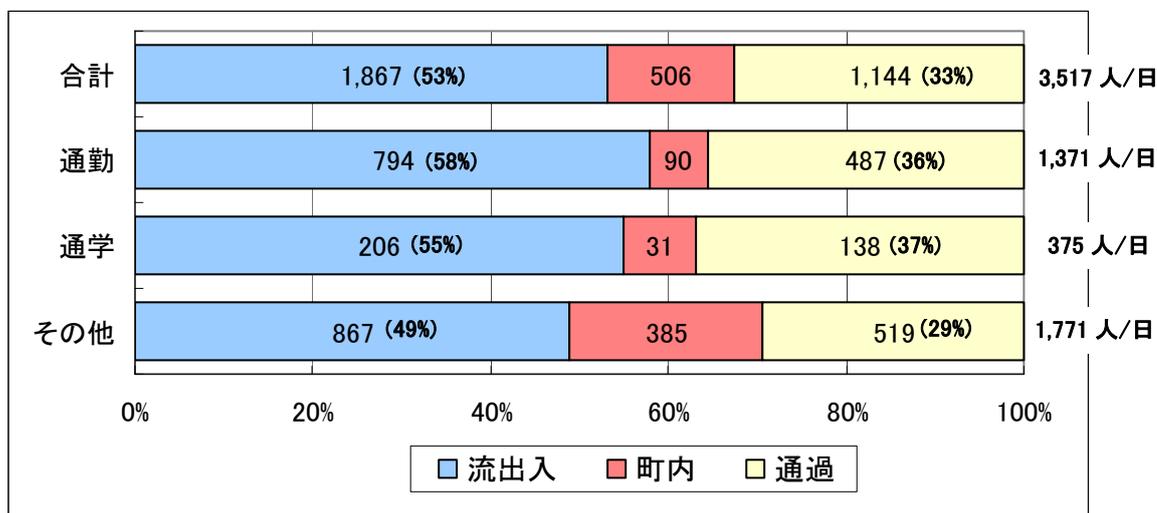


図 2-38 バス利用者の目的と乗車区間

資料：東郷町地域公共交通総合連携計画及び国勢調査のデータを加工

次に、バスルートごとの利用者の属性を整理する。

各ルートとも4割程度が勤め人で、その他は概ね1割ずつの割合となっている。各ルートとも、町民の足として多世代に利用されている。

なお、愛教大線は大学生の割合が25%と突出して高い反面、主婦等の利用が低くなっている。

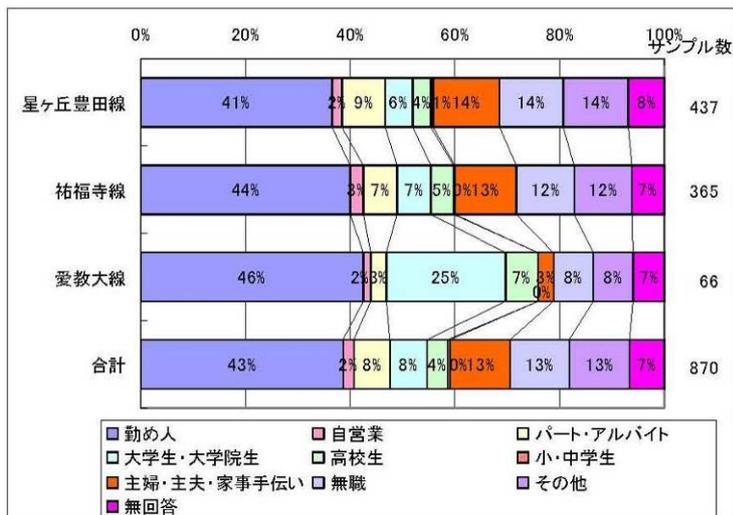


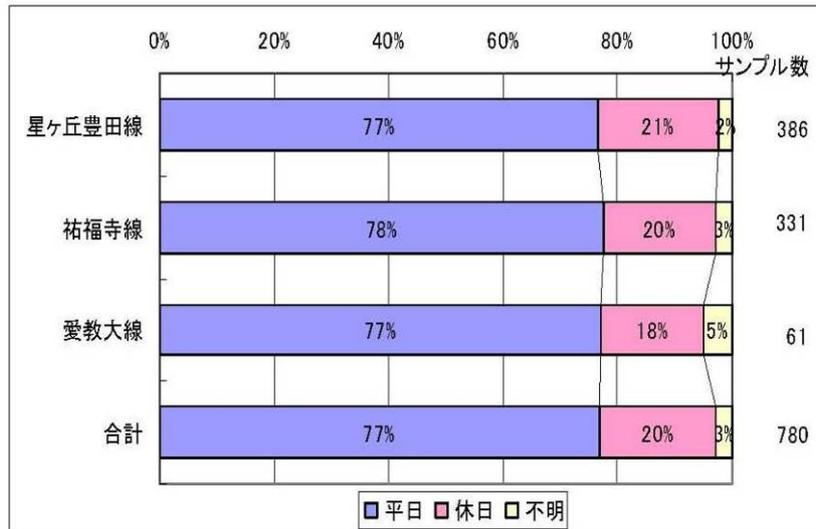
図 2-39 バス利用者の属性

資料：東郷町地域公共交通総合連携計画

②乗車日と乗車時間帯

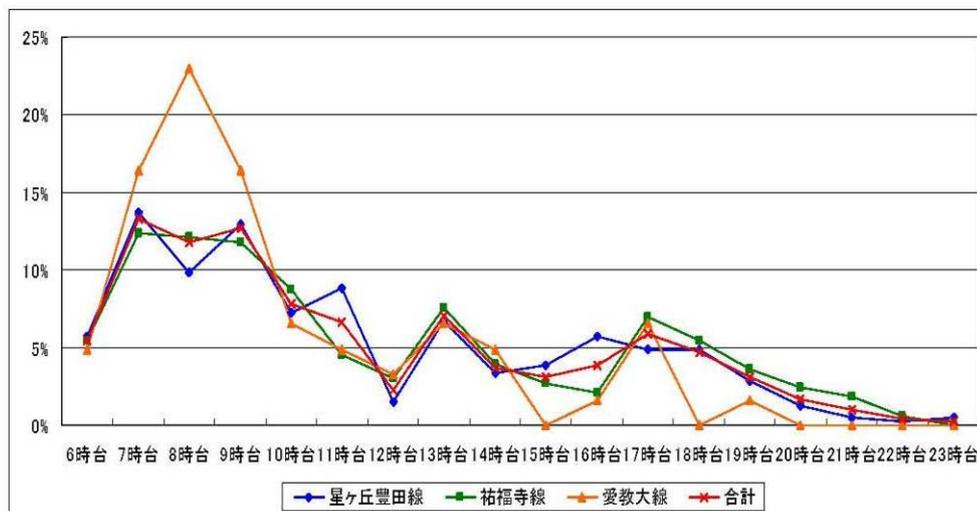
バスの乗車日は平日が7割程度、休日が2割程度となっている。

また、乗車時間帯は朝の通勤・通学時間帯（7～9時台）に集中し、帰宅時間帯は分散傾向となっている。



※合計は乗車路線不明を除く（以下同様）

図 2-40 バス乗車日



※乗車時刻不明を除く構成比

図 2-41 バス乗車時刻分布図

資料：東郷町地域公共交通総合連携計画

③バスルートごとの乗車区間と目的

バスルートごとの乗車区間と目的は、星ヶ丘豊田線及び祐福寺線の通勤・通学の利用割合が5割を超えている。愛教大線は通学の利用割合が高いが、愛知教育大が町外のため通過の割合が高くなっている。

また、じゅんかい君はその他（日常利用）利用が8割と高く日常の移動手段として機能しているといえる。

表 2-13 バス利用者の乗車区間と目的

路線		流出入		町内		通過		合計	
		人数 (人/日)	割合 (%)	人数 (人/日)	割合 (%)	人数 (人/日)	割合 (%)	人数 (人/日)	割合 (%)
星ヶ丘豊田線	通勤	367	19.5	6	0.3	436	23.1	809	42.9
	通学	86	4.6	1	0.1	102	5.4	189	10.1
	その他	402	21.3	6	0.3	478	25.4	886	47.0
	小計	855	45.4	13	0.7	1,016	53.9	1,884	100.0
愛教大線	通勤	27	14.5	3	1.6	43	23.0	73	39.1
	通学	21	11.2	3	1.6	34	18.2	58	31.0
	その他	20	10.7	3	1.6	33	17.6	56	29.9
	小計	68	36.4	9	4.8	110	58.8	187	100.0
祐福寺線	通勤	389	42.1	19	2.1	8	0.9	416	45.1
	通学	95	10.3	5	0.5	2	0.2	102	11.0
	その他	380	41.1	18	1.9	8	0.9	406	43.9
	小計	864	93.5	42	4.5	18	2.0	924	100.0
名鉄バス計	通勤	783	26.1	28	0.9	487	16.3	1,298	43.3
	通学	202	6.8	9	0.3	138	4.6	349	11.7
	その他	802	26.8	27	0.9	519	17.3	1,348	45.0
	小計	1,787	59.7	64	2.1	1,144	38.2	2,995	100.0
じゅんかい君	通勤	11	2.1	62	11.9	0	0	73	14.0
	通学	4	0.8	22	4.2	0	0	26	5.0
	その他	65	12.4	358	68.6	0	0	423	81.0
	小計	80	15.3	442	84.7	0	0	522	100.0
東郷町全体	通勤	794	22.6	90	2.6	487	13.8	1,371	39.0
	通学	206	5.9	31	0.9	138	3.9	375	10.7
	その他	867	24.6	385	10.9	519	14.8	1,771	50.3
	合計	1,867	53.1	506	14.4	1,144	32.5	3,517	100.0

参照：東郷町地域公共交通総合連携計画及び国勢調査のデータを加工

4) バスの利用者の居住地区

①居住地区

バス利用者の居住地区は、赤池駅に近い西部北地区の割合が 48.0%と高く、次に日進駅に近い中部南地区が 19.9%、中部北地区が 17.9 となっている。

②居住地区とバスの利用目的

居住地区とバスの目的を整理すると、赤池駅に近い西部北地区の通勤・通学の割合が約 25%、その他（日常利用）も約 25%と他地区よりバスの利用率が高い。

③居住地区とバスルート

居住地区とバスルートを整理すると、星ヶ丘豊田線では路線にある中部南地区の割合が高く約半数を占める。祐福寺線では路線にある西部北地区の割合が高く約 9 割を占める。じゅんかい君は、西部北地区と中部北地区の割合が高く、2 地区の計で約 6 割を占める。また割合としては高くないが名鉄バスのルートから外れる東部地区では、じゅんかい君の依存度が高くなっている。

表 2-14 バス利用者の居住地

路線	利用目的 (往復)	東部		中部北		中部南		西部北		西部南		合計		
		人数 (人/日)	割合 (%)											
名鉄バス	星ヶ丘豊田線	通勤	8	0.5	48	3.0	106	6.6	40	2.5	17	1.1	219	13.7
		通学	2	0.1	11	0.7	25	1.5	9	0.6	4	0.2	51	3.1
		その他	10	0.6	53	3.3	115	7.1	44	2.7	17	1.1	239	14.8
		小計	20	1.2	112	7.0	246	15.2	93	5.8	38	2.4	509	31.6
	愛教大線	通勤	3	0.1	6	0.4	2	0.1	6	0.4	2	0.1	19	1.1
		通学	3	0.1	6	0.4	1	0.1	5	0.3	1	0.1	16	1.0
		その他	3	0.2	5	0.3	1	0.1	5	0.3	1	0.1	15	1.0
		小計	9	0.4	17	1.1	4	0.3	16	1.0	4	0.3	50	3.1
	祐福寺線	通勤	0	0	4	0.2	0	0	220	13.6	21	1.3	245	15.1
		通学	0	0	2	0.1	0	0	54	3.3	5	0.2	61	3.6
		その他	0	0	4	0.2	0	0	214	13.2	21	1.3	239	14.7
		小計	0	0	10	0.5	0	0	488	30.1	47	2.8	545	33.4
	名鉄バス計	通勤	11	0.7	58	3.6	108	6.7	266	16.4	40	2.5	483	29.9
		通学	5	0.3	19	1.2	26	1.6	68	4.2	10	0.6	128	7.9
		その他	13	0.8	62	3.8	116	7.2	263	16.3	39	2.4	493	30.5
		小計	29	1.8	139	8.6	250	15.5	597	36.9	89	5.5	1,104	68.3
じゅんかい君計	通勤	11	0.7	19	1.2	9	0.6	23	1.4	4	0.2	66	4.1	
	通学	5	0.3	9	0.6	4	0.2	12	0.7	3	0.2	33	2.0	
	その他	71	4.4	122	7.5	59	3.6	144	8.9	19	1.2	415	25.6	
	小計	87	5.4	150	9.3	72	4.4	179	11.0	26	1.6	514	31.7	
合計	通勤	22	1.3	77	4.8	117	7.2	289	17.9	44	2.7	549	33.9	
	通学	10	0.6	28	1.7	30	1.9	80	4.9	13	0.8	161	9.9	
	その他	84	5.2	184	11.4	175	10.8	407	25.2	58	3.6	908	56.2	
	計	116	7.1	289	17.9	322	19.9	776	48.0	115	7.1	1,618	100.0	

参照：東郷町地域公共交通総合連携計画及び国勢調査のデータを加工

5) 自家用車からバスへの転換の可能性

愛知県が実施した自家用車通勤をしている人を対象とした社会実験結果によると、社会実験後もエコ通勤を継続できる人が14.7%、条件が良くなれば継続できる人が約38.1%という結果となっている。

この結果を踏まえると、東郷町で自家用車通勤をしている人も、便利になればバス等の公共交通利用に転換する潜在的な需要があるといえる。

表 2-15 エコ通勤への取組み意識

	割合
エコ通勤を継続する	14.7%
条件がよくなれば継続する	38.1%
計(最大の割合のとき)	52.8%

資料：通勤交通に関する調査：愛知県

4. 東郷中央土地区画整理事業の計画概要

ここでは、本計画で集約拠点地区として位置づけている、東郷中央土地区画整理事業の計画概要について示すものとする。

(1) 土地区画整理事業の名称等

1) 土地区画整理事業の名称

名古屋都市計画事業 東郷中央土地区画整理事業

2) 施行者の名称

東郷中央土地区画整理組合

(2) 施行地区の位置

本地区は、東郷町の中央部に位置し、幹線道路である都市計画道路 3・3・257 瀬戸大府東海線の沿線であるとともに、地区東側は町役場、町民会館を始めとする公共公益施設の集積地に隣接しており、既存ストックと一体となった計画的なまちづくりが可能な面積約 43.4ha の地区である。

(3) 土地区画整理事業の目的

本地区は、東郷町都市計画マスタープランの将来都市構造において、新市街地候補ゾーン（住居系）に該当し、新たな商業業務機能や娯楽機能、文化・レクリエーション機能等の集積を促進し、町民が集い、楽しむことのできる拠点として、町の中心核に位置付けられている。

このため、土地区画整理事業により、都市計画道路、区画道路、街区公園等の公共施設の整備改善を図り、本地区と隣接する公共公益施設の集積する地区とが連携した町の中心核の形成及び宅地の利用を促進することを目的とする。

(4) 事業区域の概要

1) 現況地形

地区の地形は、概ね南部の緩やかな丘陵地と北部の平地で構成されている。



図 2-42 南部の丘陵地と北部の平地



図 2-43 丘陵地からの眺望（北側）

2) 土地利用現況

土地利用の現況は、農地が40.7%で最も多く、次いで山林が19.1%、道路11.9%、住宅及びそのほかが10.0%ずつの割合となっている。

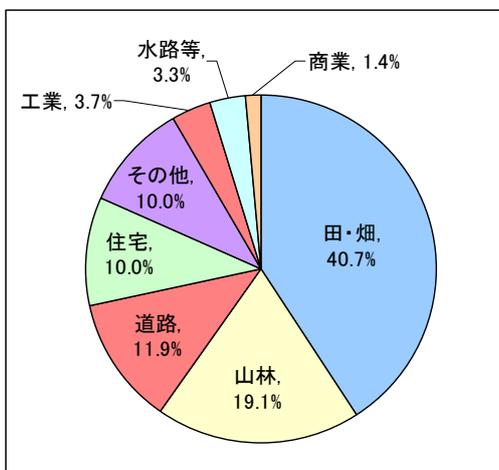


図 2-44 現況土地利用面積

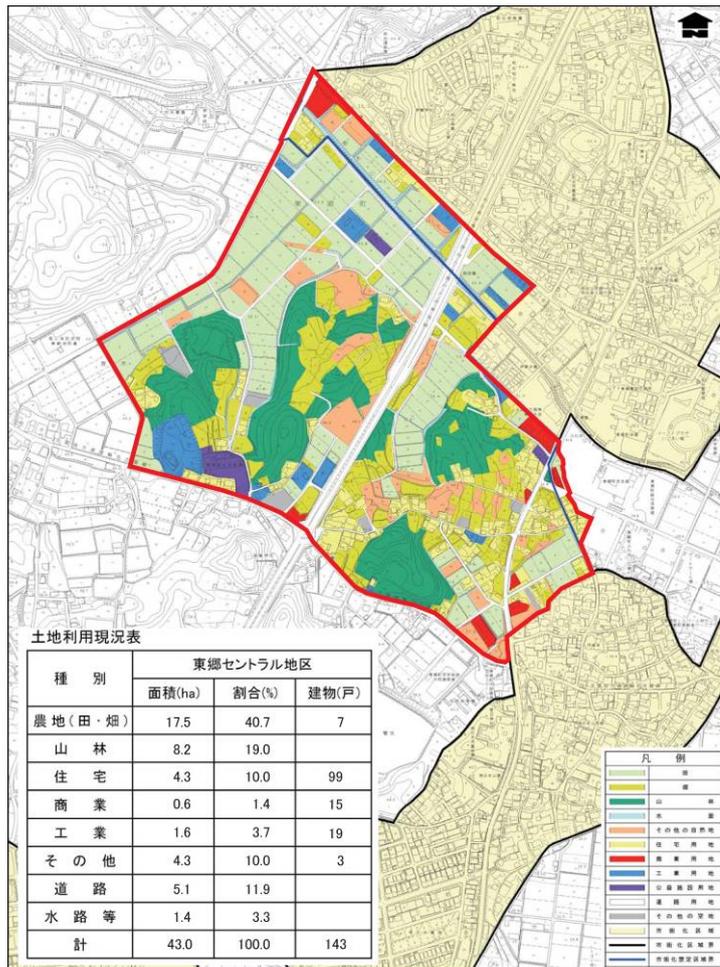


図 2-45 土地利用現況図

3) 都市計画指定状況

事業区域は、市街化調整区域に位置し、北側に第1種中高層住居専用地域と第1種住居地域が隣接している。

また、地区の中央を東西方向に都市計画道路3・3・257名古屋春木線（W=16m、概ね地区内はW=18mに拡幅予定）、南北方向に都市計画道路3・4・302瀬戸大府東海線（W=22m）が都市計画決定されている。このうち、都市計画道路瀬戸大府東海線は整備済である。

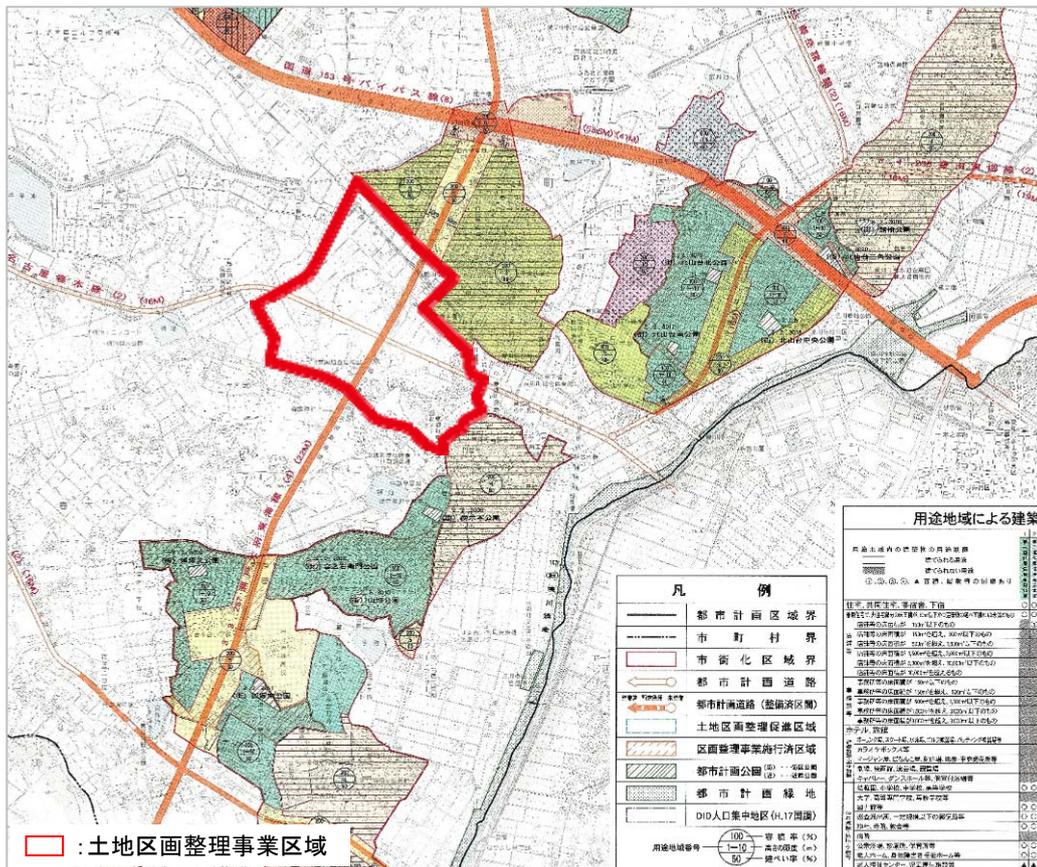


図 2-46 都市計画の指定状況

資料：平成 22 年度都市計画図

4) 交通条件

事業区域は、最寄駅である名鉄豊田線日進駅まで約2 km、地下鉄鶴舞線赤池駅まで約3 kmの場所に位置している。

事業区域は、町内南北方向の主要幹線道路である（主）瀬戸大府東海線が縦断するとともに、東西方向の主要幹線道路である国道153号にも比較的近い場所に位置しており、車でのアクセスが良好な地区となっている。

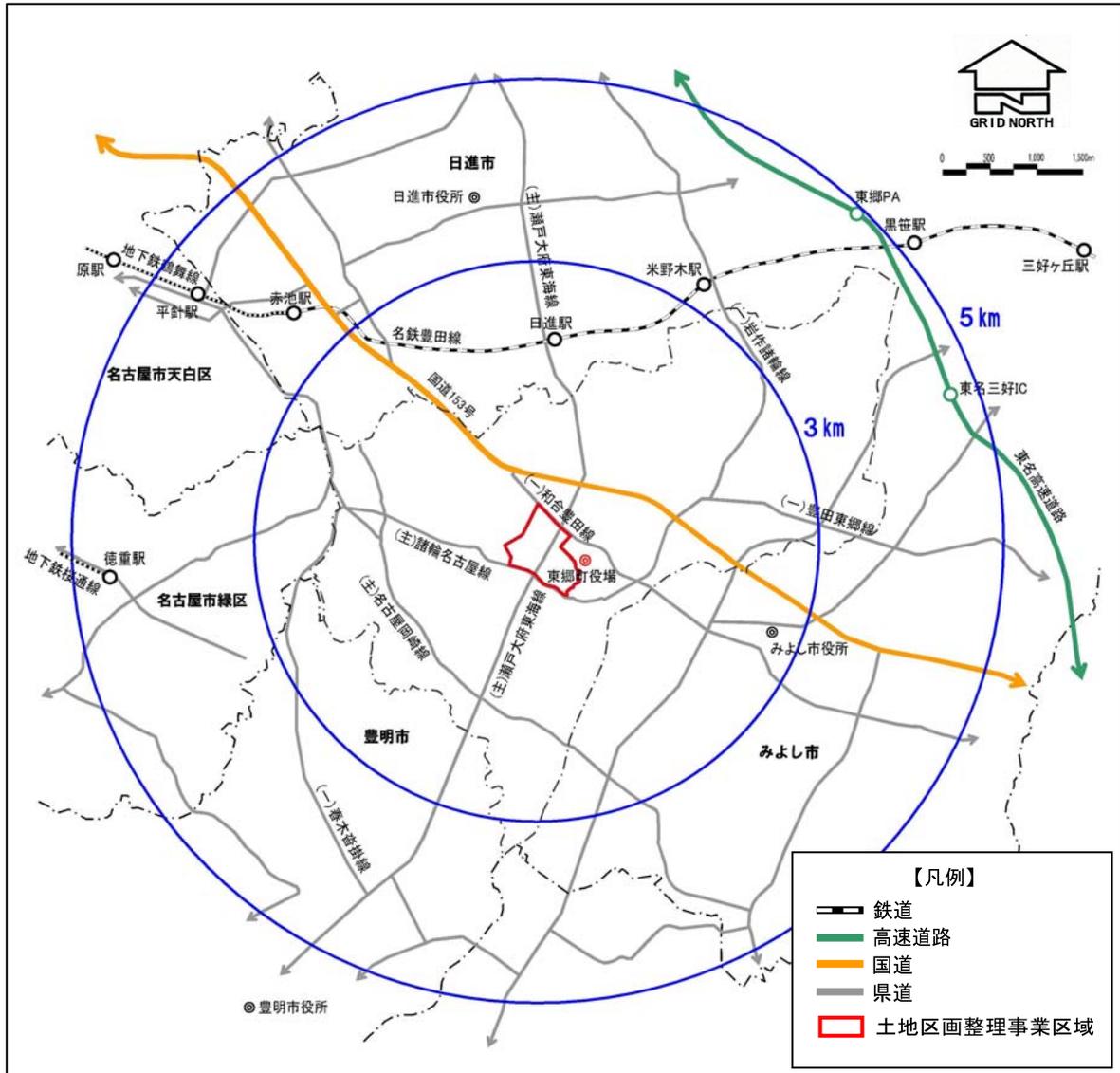


図 2-47 道路網図

5) 公共公益施設等

事業区域の半径1km圏内の公共公益施設（役場、体育館、図書館、文化施設）、金融機関の分布をみると、東側に東郷町役場をはじめとする多くの公共公益施設が集積しており、そこを起点に町の巡回バスが運行している。

表 2-17 公共公益施設等

区分	区番号	施設名	区分	区番号	施設名
公共公益施設	役場	① 東郷町役場	公共公益施設	学校	⑫ 東郷小学校
	体育館	② 東郷町総合体育館			⑬ 東郷中学校
		③ 榭池テニスコート			⑭ 中部保育園
	図書館	④ 東郷町民会館	その他	⑮ 和合保育園	
		⑤ イーストプラザいこまい館		⑯ 東郷町給食センター	
	文化施設等	⑥ 東郷町福祉センター・東郷診療所		⑰ 尾三消防本部東郷消防署	
		⑦ 中部児童館		⑱ 和合郵便局	
		⑧ 東郷町高齢者ワークプラザ	金融機関	⑲ あいち尾東農業協同組合東郷支店	
		⑨ 東郷町ふれあい広場		⑳ 豊田信用金庫東郷支店	
		⑩ 傍示本公民館			
		⑪ 和合公民館			

至 赤池・星ヶ丘

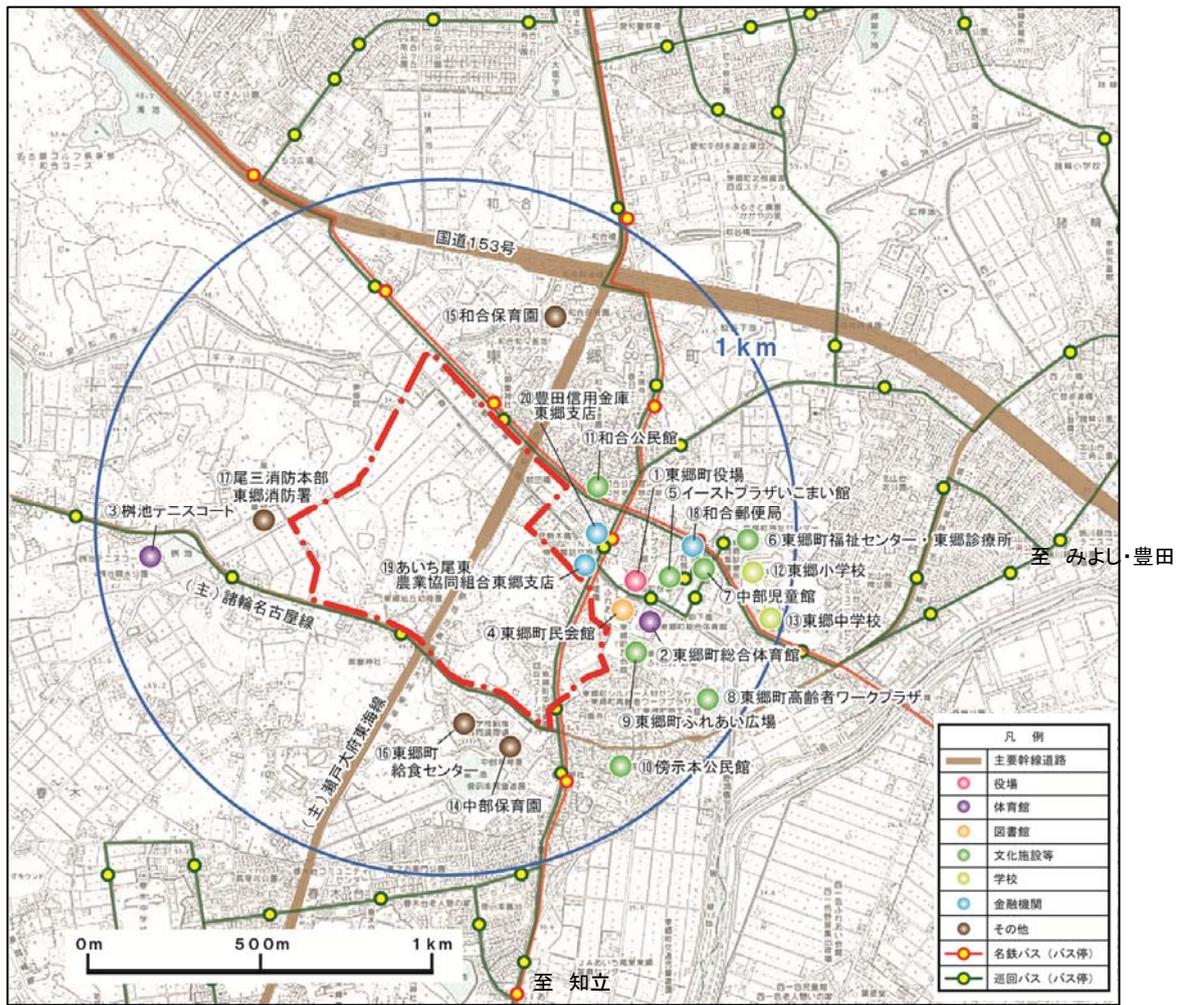


図 2-48 公共公益施設等分布図

至 赤池・星ヶ丘

(5) 設計の方針

1) 設計内容の概要

本地区の幹線道路については、地区中央を横断する都市計画道路 3・4・302 名古屋春木線 (W=18m) を新規に整備する。また、地区中央を縦断する整備済み都市計画道路 3・3・257 瀬戸大府東海線 (W=22m) については、歩道部を区画道路として拡幅整備する。

補助幹線道路については、地区東部を縦断する町道和合・春木線 (現況 W=9~12m) を区画道路 W=14m、地区西部を縦断する町道和合ヶ丘・新池線 (現況 W=8~10m) を区画道路 W=16m として拡幅整備を行い、地区北側に隣接する県道和合豊田線、地区南側に隣接する県道諸輪名古屋線については、地区内側に道路用地を確保して拡幅整備を行う。

上記の幹線、補助幹線道路 6 路線の歩道部については、有効幅員 3.0m を計画し、自転車歩行者道の機能を確保する。

区画道路については、幹線、補助幹線道路を骨格として計画的に配置し、生活道路に通過交通が流入しないよう計画する。

また、歩行者の利便性を考慮し、特殊道路を街区公園・公共公益施設を結ぶ歩行者導線として計画する。

公園については、幹線道路により分断される各居住区に誘致距離等を考慮し、街区公園を 5 箇所計画する。

排水については、東郷町公共下水道基本計画、宅地造成等規制法および砂防法との整合を図り整備する。

以上の方針により、公共施設の整備改善を図り、宅地の利用増進を推進し、健全な市街地の機能を完備するよう計画する。

2) 土地利用計画 (市街化予想)

本地区の土地利用は、東郷町都市計画マスタープランの将来都市構造において、新市街地候補ゾーン (住居系) に該当し、加えて新たな商業業務機能や娯楽機能、文化・レクリエーション機能等の集積を促進し、町民が集い、楽しむことのできる町の中心核として位置づけられています。このため、本地区の土地利用は、住宅地とともに、地区北西部において商業地を計画する。

3) 人口計画

本地区の人口計画は、約 2,400 人とする

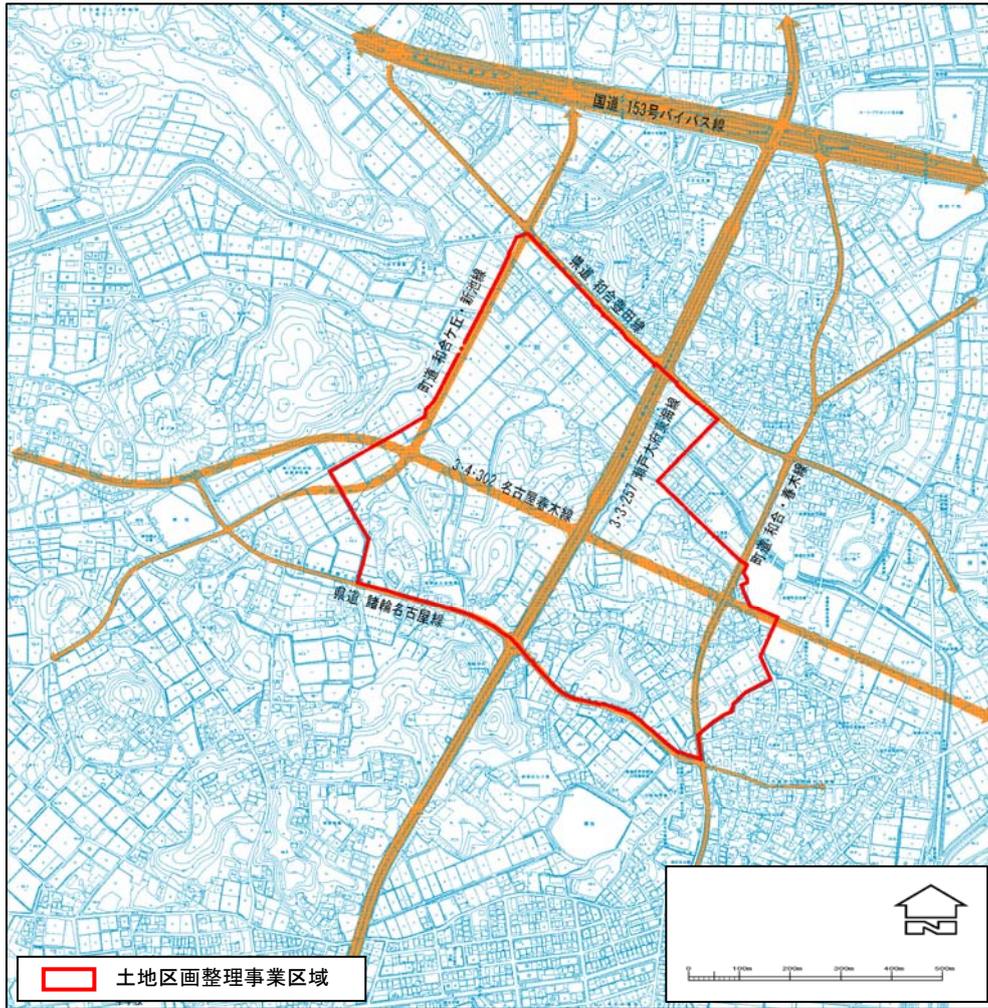


图 2-49 基本構成図

(6) 事業スケジュール

現在想定している事業スケジュールを以下に整理します。

東郷中央土地区画整理事業スケジュール(予定)

年度	項目	内容
～平成21年度	傍示本まちづくり委員会	・傍示本地区におけるまちづくりの検討
	アンケート調査(7月)	・まちづくりに対する意向確認調査
	調査結果報告(11月)	・まちづくりの方向性を確認
平成22年度	発起人会結成	・平成21年12月結成(19名)
	発起人勉強会 (1月～5月)	・土地区画整理事業の基礎知識 ・検討区域の拡大(和合前田地区、発起人4名増員) ・まちづくりテーマの検討
	第1回地権者説明会 (7月18日)	・基本構想図(まちづくりイメージ図) ・区画整理のしくみ、事業スケジュールなどの説明
平成23年度	仮同意収集	・仮同意書収集 ・土地区画整理事業を施行することについての確認
	計画協議	・施行地区の設定 ・道路や公園など主要都市施設の配置について県と協議
平成24年度	現況測量 (8月～3月)	・施行予定地区の周辺も含め現地で地形、地物、建物等を測量し、縮尺1/500測量図を作成
	地区界測量	・現地で立会い、施行地区境界を決定
平成25年度	区画整理設計	・測量図に基づき公共施設等の設計
	事業計画・定款(案)の作成	・資金計画、平均減歩率等の算定 ・事業計画、定款案の作成
	利便施設集約ゾーン 事業予定者選定	・要項公表→提案書受付→審査→事業予定者決定
平成26年度以降	第2回地権者説明会 (9月1日)	・区画整理設計(設計図)の説明
	県事前協議 (10月～3月)	・愛知県へ事業計画、定款の内容について協議
平成26年度以降	○都市計画決定(3月)	・市街化区域編入、事業決定、道路変更決定など
	事前協議回答	
	第3回地権者説明会	・事業計画及び定款の説明
	本同意収集	・本同意書収集 ・事業計画及び定款の内容について賛同
平成26年度以降	組合設立認可申請	・愛知県へ申請手続き
	認可	
平成26年度以降	組合設立総会	・認可後1ヶ月以内に開催 役員の選挙(選任) ・本格的な組合事業のスタート(換地、工事、移転など)

5. 東郷町における特徴と問題点

(1) 特徴

【上位・関連計画】

- ・総合計画で「人とまち みんな元気な 環境都市」を将来都市像に掲げ、車に過度に頼らず、エネルギーを節約し資源を大切にする、環境にやさしいライフスタイルへの転換を目指している。
- ・都市計画マスタープランにおいて、集約型都市構造に転換するため、集約拠点地区を市街地の求心性を高める中心核として位置づけている。
- ・都市計画マスタープランにおいて、平成 32 (2020) 年の人口を約 45,000 人に設定している。
- ・地域公共交通総合連携計画において、まちづくりと連携した公共交通ネットワークの形成を目標に掲げ、じゅんかい君を日常生活の主軸にまちづくりと一体となったバス交通ネットワークの形成を進めている。

【人口】

- ・人口は現在も堅調に増加しており、平成 17 年から平成 22 年にかけての人口増加率は約 6 %で県内 7 位と高い水準であった。
- ・年代別では 30 歳代の人口が最も多く、転出入状況でも 20 歳代後半から 30 歳代にかけての転入者が多いことから、結婚や子育てなどのライフステージの変化に伴う転入が多いといえる。
- ・高齢化率は約 18%で増加傾向にあるが、全国平均 (約 23%)、愛知県平均 (約 20%) より下回っている。

【土地利用】

- ・町全域で見ると、山林・原野はないものの、市街化調整区域では農地や丘陵地が多く見られる。市街化区域内では大半が住宅地となっており、典型的な郊外の土地利用となっている。
- ・土地区画整理事業は 6 地区・約 280ha が施行済みで、役場周辺から離れた町域の縁辺部に位置している。
- ・主な公共施設は役場周辺に集積して立地している。

(2) 問題点

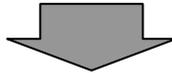
【人口・土地利用】

- ・2 村が合併した際に両村の境に町役場を設置したが、町役場周辺を中心地として開発してこなかったこと、町域の縁辺部において土地区画整理事業が実施され、DID 地区 (人口集中地区) となっていることから、これまで求心性のある中心部が形成されていない。
- ・高齢化に伴う社会福祉関係費の増加や、住宅地と農地が主となる郊外の典型的な土地利用で企業立地が少ないこと、長引く経済の低迷に起因し、町の行財政の悪化により、行政サービスの維持が困難になるおそれがある。

(3) 問題解決に向けての方向性

【方向性1】

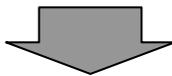
- 既存の(都)瀬戸大府東海線や、役場周辺における機能集約を勘案し、役場周辺を都市計画マスタープランで位置づけた「集約拠点」として、集約型都市構造への転換を図るとともに、役場周辺の公共施設と重点地区との連携強化を図る。
- 東郷セントラル地区では、土地区画整理事業による市街地整備を進め、商業・利便施設をはじめとした各種都市機能の導入を図り、徒歩圏に公共交通と生活利便機能を有するまちづくりを進める必要がある。
- 当面の人口増に対しては、既存市街化区域と東郷セントラル地区で対応するものとし、東郷セントラル地区以外での市街化調整区域の市街化編入を抑制し、町中心部の求心性の強化と市街化拡散の阻止を図る。



東郷セントラル地区から町全体に波及するエコまちづくりの実践

【方向性2】

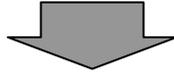
- 東郷セントラル地区内の商業・利便施設と一体的にバスターミナルを設け、地下鉄駅およびその他地域とを結ぶ、町内の交通結節拠点の実現を目指す。
- パーク&ライド、サイクル&ライドを含めた様々な施策も合わせ、公共交通の利用促進を図る。



環境にやさしい交通体系の整備

【方向性 3】

○町の将来像である環境都市を実現するためには、車依存からの脱却、未利用・再生可能エネルギーの活用を含めた省エネ・節エネ、環境配慮型のライフスタイルへの転換の実現に向けた仕組みを構築する必要がある。



エネルギー消費量の削減

【方向性 4】

○環境都市の実現にあたっては、設備や機器に頼りすぎず、風、みどり、水などの自然の力を最大限に活かすことも重要である。



市街地整備における環境への配慮